とについて関係機関の一考をわずらわしたいものである。

おわりに、本日のシンポジウムに出席し、先輩諸賢の意見を傾聴することにより、われわれの海洋研究が、漁業への貢献を目標としながら、種々の困難と制約を克服しつゝ、新しい知見の集積によつて、とみに発展へのテンポを増してきていることを、改めて認識させていたゞいたことを望外の歓びとするものであり、こゝに水産海洋研究会の発展を心から祈念して、私見の発表を終る次第である。

7　利用者側としての意見　　海洋調査に望む

堀内　吟三（全国漁業者連合会）

漁海況予報事業は39年より同実施要領に基き実施され、又普及広報は40年7月より放送送信という形で開始された。全漁連はその普及広報の業務を担当することになり全漁連内にセンターを設け過去1年半に亘り、漁海況予報の放送送信を行なつてきた。その仕組は全国にある6つの水産研究所（淡水、内海区除く）と34の水産試験場よりの情報（速報、予報）をもとに、センターにおいてラジオ放送、並にフアツクス送信用の原稿を作成し全国向けに放送送信するという内容である。漁況海況の予報そのものは今回が始めてのものでなく既に明治の末期、水産試験場が設置され、ニシン等の予報が行なわれ又その他の地区でも、地区別に予報は実施されてきている。しかし全国的な規模で国が中心となり、情報を集めこれを編集し全漁業者に報道することは今回が始めてであり、少くともその点では画期的な仕事といえよう。

以上の如く漁海況予報事業の組織は一応出来、普及広報業務も軌道に乗つたといえるが、その目的とする、資源の合理的利用と操業の効率化ということについて果して、どれだけ貢献しているかというと残念ながら前途遼々といわざるをえない。

この予報事業はいまだ1つの段階に達したばかりで色々問題を残しているがこの1年半において種々行なわれたモニター・アンケート等を通して基本的な事項をあげれば

(1) 漁況・海況の情報の速度の遅いこと

(2) 内容が総括的で、具体的でないこと

(3) 短期予報的な内容が乏しいこと等である。

気象予報が過去数十年という歴史を経て今日漸く予報の精度向上が認められてきたことを思えばこのことは、また止むを得ぬことであろう。また気象は観測点を多くとれば予報の精度が比較的向上するが漁況については、魚の生息する周囲の環境に対して固有の選択性を持つているので、海洋と漁況との関係はそれ程簡単でなく、いまだ不明の要素が大方に残されており、その点では漁海況予報は気象予報より更に困難な仕事といえよう。

しかし、漁況の判断には海況が一番大きな手掛りとなることは勿論で、この漁海況予報に対して漁業者の要望をみても第一に海況の予報を希望していることをみても明らかである。

又漁況の予報即ち漁場等を知らせ、又予報することは経済的問題もあり、自分の探索した現場は余り他人に知せたくない本質もあるので、あらゆる魚種について漁業者から真の現況の報告を

求めることは難しく、或る期間を要することと思われる。漁海況予報の仕事は資源的研究と海洋と併行して究明することは勿論大切ではあるが以上のことから先づ第一に海洋の現況の把握と予報が漁業者に役立つと思われるので海洋の観測について感じた点をあげると

1) 観測調査の組織化

現在観測調査については、気象庁海上保安部、水研水試、民間（標本船）等が行なつておるが、それは、それぞれ異つた使命をもつているので、綜合的にみれば、必ずしも効果的に実施されてないようである。勿論相互の連絡　はあり水産方面に大いに利用はされているが、合理的に組織化されれば、もつと有効な成果が得られることと思われる。

2) 観測器の開発

海洋の研究には観測器の開発が最も大切であるが水産については、まだまだ、不充分と思われる。人工衛星の飛ぶ、現在もつと効率の良い観測器が開発され利用されるべきである。最近は飛行機による表面水温の観測、無人観測塔、サリノメータ、ＧＥＫ等による高度の観測体制も次第に整備されてはきたが、まだ地方水試等では人海作戦的な調査が多いようで１日も早く高度の調査体制の整備が必要である。

3) データーの科学的整理

観測器の開発と共に調査結果のデーターの整理体制が大切で、今日まで各研究機関の調査のデーターは相当多く蓄積されているようでこれらを電子計算機等により整理すれば相当効果的な成果が得られることと思われる。……我が国の将来の食料対策をみても五年後には水産物の需要は約９００万ｔを必要といわれている。最近の水産諸情勢よりみて６７０～６８０万ｔを維持することもなかなか容易でないようで、日本近海も次第に国際漁業化することと思うとき、海洋、資源の研究はますます急速に要求されるので、研究体制の整備拡充を切に望むものである。

質疑　渡辺信雄：気象庁でやつている〝水産気象〟というＮＨＫよりの放送があると思うが、対称を漁業及び漁業家への貢献ということで気象のみなら海況並に漁業についての内容をもつている。それ以外、防災などの面も重要なことは当然のことで、重要な内容となつていると思われるが、上記の放送と漁海況予報と相互提携があるのか否か。若し別々のものであるとすれ同じ国家的な事業で緊密な提携をもつことが望しい。

宇田：現況はローカル放送で処理し、予報的総括的なものが中央放送でやられ、迅速に処理されると漁業者の希望にマツチできるのではないか？

8　行政からの期待

安枝　俊雄（水産庁調査研究部）

1) 水産行政、水産海洋の研究のバックグランドとなるが国食糧事情の大きな変動

最近におけるわが国の食糧問題として２つの大きな問題がある。１つは食糧自給率の急激な価上りである。